

東京音楽大学 音楽学部/大学院音楽研究科 入学式

野島稔学長 式辞全文

2019年4月1日(月)



新入生の皆さん、皆さんの入学を心より歓迎し、お祝い申し上げます。

いよいよ今日から皆さんは人生における大事な新しい第一歩を踏み出すことになります。音楽という、この深く美しい広大な、海にも似た世界に、皆さんこれらいよいよ船出をいたします。順調な航海ばかりではないかもしれませんが、時には悪天候に出会ったり、船が難破しそうになるかもしれませんが、たゆまず努力して、誠実にひたむきに努力した結果、それをクリアした時皆さんが実に多くのものを得たということを、実感できると思います。

これからも音楽を学ぶ上で、少し記憶に留めていただきたい、考えていかなければいけないことを述べさせていただきます。

よく心・技・体(しん・ぎ・たい)ということが言われますが、心(しん)というのはこころ、みなさんの内面ですね。技(ぎ)というのはこれは文字通り技術です。そして、体(たい)、これはみなさんの身体です。よく心技一体という言葉が言われますけれども、私はこれは音楽、そして音楽芸術というものに非常によくあてはまるぴったりな言葉だと思っております。

心・技・体。これのどれが欠けても、十分な音楽表現には至らないということが言えると

思います。

皆さんは今、その知性、感性、そして身体能力、そしてそれらを通しての吸収能力、学習能力。こういったものが、まさにピークを迎える時にあります。優れた音楽表現に欠かせないこれらの要素を、一体化して、音にする。これを体得するのに、まさに最良な時にあると言えます。

重ねて申しますけれど、こういう時間は今を於いても、二度と来ません。もちろん人間の知力、精神力、洞察力などは本人が非常に努力して、人生で色々な経験を踏まえた上で、ほとんど際限なく伸びていくものだと思いますけれども、音楽においては今、そのことを自分の体で覚え、体に沁み込ませる。こういうことをしておかないと、枝や葉っぱはすすく伸びますが、実は結ばない、花は咲かない。こういうことになりかねません。

ですから私は皆さんが、これからの数年間、粘り強く、エネルギッシュに貪欲に自分の心、そして体全体に音楽を感じそれを沁み込ませて、音にする。そしてその感動を人に少しでも伝えられるように、技術の練磨、技術を磨く事を忘れずがんばっていただきたい。

自分の心、体に響く音楽。これに耳を澄ませ、よく自分のなかで反芻しながら、階段をあげるように、一步一步ゆっくりとでいいんです。しかしたゆまず、これを感じ、勉強に邁進していただきたい。

皆さんの、この東京音楽大学での数年間が生き生きとして、感動や喜びに鮮やかに彩られていくことを、心から祈っております。